

【短報】宮古諸島水納島におけるヤマトスナゴミムシダマシの記録と若干の生態観察

沖縄県多良間村水納島は、石垣島と宮古島のほぼ中間距離に位置する面積 2.15 km² の小島である。隆起サンゴ礁の上にサンゴの砂が積もってきた島であるため、島がきわめて平坦で水系は全くない。植生は貧弱で防潮、防砂林として植えられているテリハボク *Calophyllum inophyllum* L. やガジュマル *Ficus microcarpa* L. f. 等の数種の樹木がみられるほかは殆どが海浜植物である。また一部畜産が行われウシを放牧しているほか、全島に半ば野生化したヤギが多く生息している（図1）、草本類が食べられ土壌は乾燥している。

このような特異な環境のため、昆虫相は極めて貧弱で甲虫類の記録はほとんどないが、ヤマトスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coenosum* Kaszab, 1952 が多産していた。水納島からは新記録であり、このような特異な環境での生息状況を、短い期間の断片的な観察であるが報告しておく。

本種は広域分布種で、シベリア東南部、モンゴル、

中国大陸、台湾に分布し、国内では本州、四国、九州、南西諸島ではトカラ列島、久米島、宮古島、栗間島、石垣島、竹富島、西表島、波照間島、与那国島、魚釣島から記録されている（東，2002）。これら本種が分布している離島の中では水納島は最も面積が狭く標高も低い。

採集記録

11♂♂, 6♀♀, 沖縄県多良間村水納（水納島）、16.VI.2015, 楠井採集。

これらの個体は同定のために採集したもので、滞在期間中（6月15～17日）に島内各所で多数目撃した。

生息状況

1) 本種の活動時間

夜間にも見られるが、日中地上を歩行する個体を見ることが多い。また、少数であるが草丈の低い植物の葉上を歩き回る個体もいた。しかし、日光が直接当たるのは苦手なようで、日がさす時間帯は日陰に集まってくる（10時頃から17時）。集



図1. ヤマトスナゴミムシダマシの生息環境。定期的にヤギの群れが通り、下草が一定の高さになっている。



図3. ソテツの幹の切断された部分に集まる個体。



図2. マメゲンバイナズナに上り枯れた部分を食べている個体。



図4. ヤモリの糞を食べる♀と交尾する♂。

まり方はばらばらで、集合というより好ましい場所に個体数が多くなることによる。

この島では、転石や倒木などの隠れる場所があまり見られないためか、かなり日数が経過したと思われる乾燥した牛糞の下に多くの個体が集まるのが見られた。また一般的ではないが、民家（通常は無人）の軒下のコンクリートの割れ目にも集まっているのが見られた。

2) 食性

1. マメグンバイナズナ

通常は植物質のものを食しているものと思われるが、島内の砂質の地面には餌となる植物の種類は限られている。観察したのはマメグンバイナズナ *Lepidium virginicum* L. (アブラナ科) (岩槻, 2014) の枯れた部分である。ヤギの食べ後と思われる、上部の無くなった株が多く見られ、食べ残された枯れた茎に上り、上部を食べているのを観察した (図2)。この地域の植生からみて主となる食べ物のようである。ちなみに、この属の植物は全てが外来種とされている (近田ら, 2006)。

2. ソテツの切痕から出る樹液?

島内では、道路に沿ってソテツが植えられていて、増えすぎた幹が道路の邪魔にならないよう地表近くで切断されていた。日没後にその切断面に10個体ほどが来て食べていた (図3)。ソテツの断面は視覚的にはスポンジ状に見え、樹液らしいものは確認できないが、表面を咀嚼しているように見えた。またワモンゴキブリ *Periplaneta americana* (Linnaeus) も数個体見られ、同じようにこれを食べていた。日中は同じ場所にクロマダラソテツシジミ *Chilades pandava* (Horsfield) が飛び交い、複数個体が吸汁 (表面を舐める?) していた。

3. ヤモリの糞

恒常的に利用しているとは思われないが、民家の外灯に飛来する虫を食べにくるヤモリの糞が地上に落ちたものを食べていた (図4)。ただ至る所に散乱しているヤギの糞と、本種が日中の隠れ場所とする牛糞の乾燥したものも食べる可能性は考えられるが、確認できなかった。

交尾行動

目撃した個体数は多いが、交尾行動を観察することは少なかった。日照が強くなって日陰に集まりだした時にコンクリート上で出会った2例と、上記のヤモリの糞を食べているメスに乗駕した一例 (図4) を観察したのみである。いずれも日中であるが、牛糞の下などに多数が集まった場合の様子は不明である。

謝辞

ゴミムシダマシの同定には秋田勝己氏にお世話になったことを記し、お礼申し上げる。また渡島、在島について何かとお世話いただいた宮国孝平氏ご一家にお礼申し上げる。

引用文献

- 東 清二 (監), 2002. 琉球列島産昆虫目録. 596 pp., 沖縄生物学会.
 岩槻秀明, 2014. 雑草・野草の暮らしがわかる図鑑. 489pp., 秀和システム.
 近田文弘・清水館美・濱崎恭美 (編), 2006. 帰化植物を楽しむ. 239 pp., トンボ出版.

(楠井善久 903-0805 那覇市首里鳥堀町 4-123-1 東苑荘 1-E)

【短報】北海道初記録の甲虫3種

筆者がここ数年採集した甲虫類のうち、北海道において過去に採集記録がないと思われるものを見いだしたので報告する。なお、これらは全て筆者が採集し保管している。

1. オバケデオネスイ *Mimemodes monstrosus* (Reitter)

1 ex., 北海道上磯郡知内町上雷, 11. VIII. 2013; 2 exs., 北海道爾志郡乙部町元町宮の森公園, 22.VIII.2015. (図1).

知内町の個体はヨシのピーティングにより、乙部町の個体は灌木のピーティングによって得た。

本種は、黒澤ら (1985) および平野 (2009) におい

て、国内の分布域は本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬などとされ、北海道が分布域となっていなかったものである。

2. ベニモンアシナガヒメハナムシ *Augasmus coronatus* (Flach)

1 ex., 北海道爾志郡乙部町元町宮の森公園, 22. VIII. 2015. (図2).



図1. オバケデオネスイ。